

研究会指導講師の先生より

特別な支援が必要な子どもには「個別の支援計画」や「個別の指導計画」を立てるということが、保育現場に広がってきています。しかし、実際には「どう書けばよいかわからない」「書いていても、次の計画策定時まで見直す機会がなく、実際には支援ができていない」などの声が聞かれます。

これらの計画は、あくまでも子どもにより良い保育や支援を行うための「手段」であり、「目的」ではありません。計画の目的は「子どもの理解を深め、その子どもにあったより良い保育や支援を行うこと」にあります。計画の書き方や表現の仕方にこだわることで見直せることはもちろんありますが、そうしたことにとられるあまり、本来の目的から離れてしまっは本末転倒です。

この事例集は、本来の目的に近づけるように・・・と願ってまとめられました。計画を考える中で、具体的に検討する「児童の姿」を絞りこみ、その児童の姿が「なぜ」生じるのかを考えること、またその「なぜ」に合わせた手立てを具体的に整理すること、最終的にそれを振り返る欄を埋めることで、上記の目的に近づけると考えています。

似たような行動を示していても、その理由や背景は一人一人異なります。なぜその子どもがこのような行動をするのか、一人で抱え込まずに職員間で話し合い、実践の中でさらに子どもの様子を観察していくことで、子どもの理解を深め、それぞれにあった手立てを実践してもらいたいと思います。



令和8年2月作成



大阪市保育・幼児教育センター